

遺骨10柱収集、帰国

インドネシア沖 旧日本軍艦艇から

インドネシア・スラウエシ

島(旧セレベス島)南部マサツカル沖で第2次大戦中に撃沈された日本軍の第11号掃海艇から、厚生労働省の遺骨調査・収集団が遺骨10柱を収集し、持ち帰った。遺族として調査団に参加した福岡県大牟田市の笠原美代さん(82)は、死亡した他の乗組員218人の遺族たちにも「連絡してほしい」と呼びかけている。

調査団は6月21日と7月1日に現地入りし、大腿部や肋骨などが見られる骨二十数本を収集した。インドネシアの医師の鑑定の結果、日本人9人の遺骨と判定された。

第11号掃海艇は1945年3月、マサツカル港の西約5キロの海上で米軍機の爆撃を受けて沈没。乗組員300人のうち219人が海中に没した。その中には愛媛県出身の笠原さんの兄で当時24歳の池田二郎さんも含まれていた。

笠原さんは「兄がどのように死んだかを確かめたい」と思ってきたが、05年12月ごろ情報もたらされた。沈没現場の海底に船体らしいものがあり、遺骨が散乱し、地元住民らが鉄骨を解体して持ち去

っているというものだった。笠原さんは06年4月にインドネシア在留邦人の協力を得て、船底にあった頭蓋骨1個を引き揚げてもらった。沈没船の遺骨収集に消極的だった厚生労働省も「遺骨の尊厳が損なわれている」として調査団の派遣を決めた。

調査団は先に見つかった頭蓋骨を含め10柱の遺骨を焼骨して遺灰を持ち帰った。同省によると沈没船からの遺骨収集は14年ぶりという。

笠原さんは「10柱に兄が含まれているかどうかかわからないが、219人全員の遺骨と考えて連れて帰った。遺族の方にお知らせしたい」と語った。連絡先は笠原さん(0944・51・2727)へ。

← 7/16 14版

旧日本軍艦艇から遺骨10柱収集

インドネシア・スラウエシ島旧セレベス島 南部マサツカル沖で第2次大戦中に撃沈された日本軍の第11号掃海艇から、厚生労働省の遺骨調査・収集団が遺骨10柱を収集し、持ち帰った。

遺族として調査団に参加した福岡県大牟田市の笠原美代さん(82)は、死亡した他の乗組員218人の遺族たちにも「連絡してほしい」と呼びかけている。

第11号掃海艇は1945年3月、マサツカル港の西約5キロの海上で米軍機の爆撃を受けて沈没。乗組員300人のうち219人が海中に没した。その中に愛媛県出身の笠原さんの兄で当時24歳の池田二郎さんも含まれていた。

笠原さんは「兄がどのように死んだかを確かめたい」と思ってきたが、05年12月ごろ情報もたらされた。沈没現場の海底に船体らしいものがあり、遺骨が散乱し、地元住民らが鉄骨を解体

「乗組員218人の遺族、連絡を」

インドネシア沖で沈没

(4/13)

し持ち去っているというものだった。笠原さんは06年4月にインドネシア在留邦人の協力を得て、船底にあった頭蓋骨1個を引き揚げてもらった。沈没船の遺骨収集に消極的だった厚生労働省も「遺骨の尊厳が損なわれている」として調査団の派遣を決めた。

調査団は6月21日と7月1日に現地入りし、大腿部や肋骨などが見られる骨二十数本を収集。インドネシアの医師の鑑定の結果、日本人9人の遺骨と判定された。調査団は先に見つかった頭蓋骨を含め10柱の遺骨を焼骨して遺灰を持ち帰った。同省によると沈没船からの遺骨収集は14年ぶりという。

笠原さんは「10柱に兄が含まれるかどうかかわからないが、219人全員の遺骨と考えて連れて帰った。遺族の方にお知らせしたい」と語った。連絡先は笠原さん(0944・51・2727)へ。

7/19 訂正記事

訂正 16日付「遺骨10柱収集、帰国」の記事で、インドネシアの地名と港名が「マサツカル」とあるのは「マカツサル」の誤りでした。訂正します。